

▼日常生活擁護の爲めに沿線住民は其のあらゆる層を動員せよ 而して暴戻極りなき京濱電鐵に抗議せよ!

昨年十二月三十一日深更縣當局の調停によつて御大葬十日後まで待遇改善問題の延期をなし、ひたすら謹慎して奉悼の意を表してゐた私達京濱電鐵従業員の紳士的態度は、汎ねく稱讃の的となつてゐた處であります。

泣いて解散した六百の健兒の腦裡に、會社側の提出した覺書の字句は、はつきりと焼きつけられ、「御大葬十日後には必ず誠意ある」回答を得る事とのみ信じ、何がなし、力強い日を送つて居りました待ちに待つた二月十八日は來ました。

私達一同は打ち揃つて然も靜肅に回答を受けに行きました。だが何うでせう! 驚いた事には會社の四方は釘付けにし、恰も夜盜か山賊に備へるかの様な有様なのです。

從來私達の行動は飽くまで公明であり従つて合法的な運動であつた事は、既に皆様が御承知の筈だと思ひます。警察當局も勿論斯く認められて居ります。それに會社側のみが私達に對して是の如き態度に出づるのは彼等以後暗い所があると云ふ事を雄辯に物語つてゐるのではありませんか? 正當は要求を容れないで自分等のみが莫大な富を積まんとする彼等の欲望の如何に醜き事よ!

代表者のみを一室に招致し、一片の回答書を突きつけ「これで君達に用はない筈だ」と空嘯ふいてゐる重役の面憎さを私達は永遠に忘れる事は出來ないでせう。曾て覺書の中に誓つた「誠意を以て審査を遂げ」と云ふ言辭を彼等は何日か忘れ去つたのであらうか、二十六ヶ條の嘆願中僅か二ヶ條をそれも經費に關係ないものをのみ承認し、他は悉く理由も付せず一蹴し去つたのであります。私達はかゝる暴戻に對してまで温順な羊でなければならぬでせうか? それは餘りに悲しい宣言です。邪惡の前には勇敢に起つて劍を振つてこそ眞の「人間」ではないでせうか?

あらゆる勤苦と壓迫を排して私達は會社に對する應戰の準備を整へました。

然るに茲に頗る奇怪な事件が発生しました。自由思想は現社會の哲學です。會社の挑戰に對して従業員側が之に應戰する事は自由でなければなりません。

だが會社は若い女子出改札員を殆んど監禁同様にして戦ふ力をも剝奪してしまひました。加之男子寄宿舎に雜居せしめてゐると云ふに至つては言語に絶する狂的行狀と言はねばなりません。

之と同様な例は男子の一部にも行はれてゐます。或は自宅より連れ行き或は虚言を弄して其の妻や母を説き争議團より裏切らせん爲に吸々たる有様です。

斯くまでにして従業員の正當な嘆願を蹂躪せんとする彼等の人事は何人と雖も之を憎まずには居られないでせう。

それにも關らず従業員は涙を吞んでかなり苦しい讓歩をして居るのです。

それも一に親愛なる乗客諸賢に永く御迷惑を掛けるに忍びないからです。

従業員側のかゝる苦衷も、彼等の心には何の反響も起さないのか、頑迷に自説を固執して下らない爲めに調停者の川崎署長殿も憤激して居られる始末です。頑迷な會社に對する憤激は私達の周囲のみならず全郊外電鐵の兄弟は勿論東京横濱市電一帯に波及し、今や私達に對する同情は白熱的に高調し至る處に何等かの形態となつて現はれつゝあり、また深刻に實行されつゝあります。親愛なる來客諸賢よ。諸賢の日常生活の利益を擁護せんがために私達の今回の運動を積極的に支持し確固たる共同戦線を形成せられよ!

減車政策絶対反對、停留場廢止絶對反對、大森川崎間料金値上撤回收従業員待遇改善即時實行、殺人速成運轉手製造反對、遺留品紛失徹底的問責、解雇復職要求

三月二日

日本交通労働總聯盟

自治會 京濱支部